

ロータリーと持続可能性



国際ロータリー第2580地区
2017-18年度ガバナー

吉田 雅俊

イアン・ライズリーRI会長は、ロータリーの活動の全てに於いて、“持続可能性”をキーワードに語っています。もともと持続可能性(sustainability)とは、如何に水産資源を保ちながら最大限の漁獲量を上げ続けるかという水産資源評価の分野の専門用語でした。限りある資源を消費し続ける活動には持続可能性はありません。化石燃料の採掘には限りがあるため、それに依存した文明にも持続可能性がありません。また、金属資源にも限りがあるため、これらを消費し続ける活動も持続可能性がありません。

つまり、リサイクルや代替資源の開発が不可欠なのです。単純なゴミ処理には限界があり確立した廃棄物処理技術が無ければ持続可能性はありません。原子力エネルギー開発もしかりです。

持続可能性という言葉はブルントラント委員会の「持続可能な発展」がオリジナルであり、これは「将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす発展」を意味します。近年、経済活動が急速に拡大進展するに伴い、地球環境は加速度的に悪化しており、先進国と途上国の経済格差は拡大の一途を辿っています。このような状況下で如何に

地球環境を守り、人類総ての人権を尊重し、持続可能な発展を実現するかは、難しい命題です。

現在の社会において、持続可能な発展とは、「地球の有限性を前提に、南北間格差の縮小と貧困問題の同時解消を目指した発展」と理解されています。

では、なぜ持続可能な発展のためには、発展途上国の貧困問題解決も必要とされるのでしょうか。地球環境の持続可能性とは、煎じつめると人類の健康を保つことであり、貧困問題の解消は心を健全にすることにつながります。体と心は不可分の関係で、体と心が健康でなければ、人類の健全で持続可能な発展は望めません。

今ロータリーにとって、持続可能性の実現に、如何にロータリーのサービスを通じて寄与するかが重要な課題となってきたと私は思います。究極の持続可能性は、地球の環境保全であります。

各クラブに於かれても、RI会長の推奨する会員1名につき1本の植樹を、来年4月22日のアースデイまでに行うことを実現していただきたい。また持続可能性を念頭に置いて地区補助金及びグローバル補助金の対象となる事業に取り組んでいただきたいとします。